

薬学部実務家教員による地域薬剤師の無菌調製技能向上への寄与とその評価  
○廣谷 芳彦<sup>1</sup>, 池田 賢二<sup>1</sup>, 名徳 倫明<sup>1</sup>(<sup>1</sup>大阪大谷大学薬)

【目的】最近では、多くの病院で輸液調製や抗がん剤調製が必要となっている。また、保険薬局においても在宅患者に対する輸液調製の必要性が高まっているが、その施設で全く無菌調製の経験者がいない場合にはそれらの実施は困難である。また、職能団体主催の技能講習会は少なく限定されており、抗がん剤調製を含む無菌混合調製業務のさらなる普及を困難にしている。今回、大阪大谷大学薬学部では地域連携の一環として地域薬剤師を対象に抗がん剤調製を含む無菌調製講習会を実施し、参加者にアンケート調査を行ったので報告する。【方法】平成21年2月から平成22年3月まで6回、地域薬剤師を対象とした初心者向けの無菌調製技能講習会を本学模擬薬局で実施した。最初に全体講義、次いで基本技能の予備実習、無菌室での輸液調製実習、抗がん剤調製室での抗がん剤調製実習の順で3~4時間で実施した。講習会終了後、参加者にアンケート調査を行った。【結果・考察】59名の地域薬剤師（病院薬剤師41名、開局薬剤師18名）に無菌講習会を実施した。参加者の薬剤師歴は、10年以上20年未満の参加者が最も多かった。参加者の講習会内容についてはほぼ満足し、その理解度についてもほぼ理解したと回答した。初心者あるいは未実施施設の薬剤師の参加が多かったため、主な参加目的は基本的な無菌技能の習得であった。そのため、無菌調製の関心事も「一般無菌調製技能」の習得が最も多く、次いで「高カロリー輸液の混合調製」であった。一方、今回の講習会参加でさらに技能を高めたいとの希望も多く見られた。実務経験のある薬学部教員による無菌技能講習会の実施が地域薬剤師業務の向上に寄与できることが示唆された。今年度は、より実践的な無菌調製講習会の開催を予定している。